

1725年から代々続く醸造所。2006年にガイゼンハイム大学で栽培醸造を学んだヨハネス・ローレンツが、醸造所に戻ってくると同時にビオロジックに転換。化学合成農薬・合成肥料や除草剤の使用を止め、ピオ農法団体エコヴィンの認証を取得。自前の太陽発電パネルを設置して電力を賄い、冬の剪定作業を行わず、ブドウ樹が自然に到達したバランスで自然に収量を落とし、小粒で香り高い葡萄を得ている。

醸造所があるラインヘッセン東部のフリーゼンハイムは、標高245mのペータースベルクの山の影にある。15haの畑の土壌は、レス土やローム質土壌や石灰質を多く含む泥灰土。品種はリースリング、ミュラー・トゥルガウ、シャルドネ、ヴァイスブルグンダー、ジルヴァーナー、フクセルレーベ、ショイレーベ、カベルネ・ブラン、ドルンフェルダー、カベルネ・ソーヴィニヨンなど。生産の約60%が赤ワイン、95%が辛口。微発泡スパークリング「ヴァッハゲキュスト」（「目覚めのキス」の意味）の他にも「ウアシュライ」（「根源からの叫び」の意味。無剪定栽培で原始的なワイン造りを目指した赤）など、若手醸造家らしいユニークなネーミング。

	<b>◎ Wachgeküst Secco - Weiß</b> ヴァッハゲキュスト・セッコ ヴァイス			備考	リースリングとリヴァーナー（＝ミュラー・トゥルガウ）をベースに、生産年によってわずかにセパージュを変えて醸造する。それによって、色や味わいも年により若干異なる。
	畑	品種：リースリング、リヴァーナー他 植樹：1985年頃 位置：標高170m、南向き 土壌：石灰岩土壌	醸造		
	<b>◎ Wachgeküst Secco - Rose</b> ヴァッハゲキュスト・セッコ ロゼ			備考	ワインの名前は、ドイツ語で『目覚めのキス』を意味する。飲んだ時に、あたたかキスをされているかように舌の上に心地よい泡を感じる。
	畑	品種：ポルトギーザー 植樹：1985年頃 位置：標高270m、南向き 土壌：石灰岩土壌	醸造		
	<b>○ Riesling trocken</b> リースリング・トロッケン			備考	有機栽培されたリースリングの、自然で肩の力が抜けた素直な味わいが魅力。普段飲みにもってこい。
	畑	品種：リースリング 植樹：1995年頃 位置：標高170m、南向き 土壌：石灰岩土壌	醸造		
	<b>● Wilhelm Tell Apfeltischwein</b> ヴィルヘルム・テル・アプフェルトィッシュヴァイン（りんごワイン）			備考	地元向けに造られたと思われる、気軽なアップルワイン。ちょっとすり切れた感じのあるリサイクルボトルと、シンプルで、どこかレトロなエチケット。味わいは軽くさっぱり、よく冷やしてどうぞ。
	畑	品種：様々な種類のリンゴ 植樹：不明 土壌：石灰岩土壌	醸造		